

事業所名

児童発達支援センターひかりの子(放課後等デイサービス)

支援プログラム

作成日

2025年

3月

10日

法人(事業所)理念	キリスト教精神における「隣人愛」		
支援方針	施設利用者に対し、障害に即した医療を提供するとともに、個の尊厳を護り、質の高い生活を提供します ・すべてのライフステージで支援をおこなう。 ・障害支援の高い専門性を持つ。以下の2点を重視する。 1. 深い障害理解に基づいた高いQOL(生活の質)の提供 2. 障害専門医療		
営業時間	13時 9時	45分 00分	17時 16時
	30分 45分	送迎実施の有無	あり なし ※放課後時間の学校から事業所までの送迎のみ
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	体調観察や適切で安全な医療的ケアを実施し、体調良く過ごせるように支援します ・体調の把握に努め、体調良く安心して過ごせるよう支援する(呼吸状態の観察、安全な経管栄養の実施、皮膚トラブルへの配慮、個々の特性に合わせた移乗介助 など) ・過ごしやすい環境を整える(衣類や室温の調整、マットや枕類の工夫 など) ・個別の食事形態や摂食方法に合わせて安全に食事が摂れるよう支援する(管理栄養士との連携) ・身の回りのことに関心が向き、できることが増えるよう支援する	
	運動・感覚	個別の運動機能に合わせて、楽しく体を動かせられるように支援をします(作業療法士、理学療法士による機能訓練含む) ・適正な運動感覚を得るための環境設定(装具装着、眼鏡、補聴器、姿勢保持装置など) ・目的(活動、安楽、排痰など)に合わせたさまざまな姿勢で過ごせるよう支援する ・楽しく体を動かす 運動機能を促す	
	認知・行動	個別にじっくりと関わることを大切にし、一人ひとりにあった遊びや興味関心を見つけていけるよう支援します ・個々の年齢や発達段階、興味関心の対象の理解に基づいた活動を提供する ・活動や遊びを通して満足感を得られるように支援する ・さまざまな経験や遊びを通して新しい発見や興味関心が広がるよう支援する ・活動や遊びを通して「やってみたい」気持ちが持てるよう支援する	
	言語 コミュニケーション	気持ちが相手に伝わる経験を通して、他者と心地よいコミュニケーションがとれるよう支援します ・視線を合わせて声をかける ・場面や気持ちに合わせたことばかけをする ・表出(発声、視線、体の動きなど)から気持ちや要求を汲み取り丁寧な関わりを持つ ・指さしや身振りで気持ちを伝えられるように支援する ・簡単な言葉や選択肢を使い選べるようにする ・絵カードなどを使用し視覚で分かりやすく伝える	
	人間関係 社会性	他者との関わりを通して、人とのやりとりを楽しめるよう支援する ・他児の様子を傍で感じられる環境設定(姿勢や視線、距離感への配慮)をする ・活動や遊びを通してできたことやうれしい気持ちを共有する ・職員が間に入り子ども同士の関わりを持てるよう支援する ・遊びの中で順番を意識できるようにする ・日課を意識し行動できるよう支援する	
家族支援	ご家族が安心してご利用できるよう支援します ・個別面談を通しての情報共有・管理栄養士との栄養相談(必要時) ・連絡ノートや写真でご利用中の様子を伝える	移行支援	成長発達に合せて適切な支援体制がとれる様に支援します ・定期的に個別の発達段階を確認し、適切な支援体制を検討 ・卒業や事業所移行時の移行支援(特別支援学校・生活介護事業所)
地域支援・地域連携	関係機関との情報共有と連携を行い、支援します ・特別支援学校、相談支援事業所や並行利用事業所との情報共有や連携 ・関係機関(リハビリ・訪問看護・短期入所など)との情報共有や連携 ・医療機関との情報共有(退院前カンファレンスへの参加)	職員の質の向上	防災訓練(月1回/全職員)・緊急時蘇生訓練BLS(年2回/全職員) 通所部門研修(年1回/全職員)・虐待防止研修(年1回/全職員) 看護師、児童支援員ラダー評価制度の実施・実習見学者の受入れ 通所部門学習会(年数回/希望者)・外部研修への参加
主な行事等	事業者説明・個別面談(希望者) 季節に合わせた療育(音楽活動、装飾作り、感触遊び、など)、クリスマスメニューの提供、誕生日会 など		